

# 献辞

経済学部長 芝村篤樹

安藤洋美教授は、本年3月末をもって桃山学院大学を退任されることになりました。

先生は、大阪大学理学部数学科をご卒業後、尼崎市立高等学校、御影高等学校、尼崎北高等学校の教諭を勤められ、この間に神戸大学理学部数学科において、専攻生として数理統計学の研究に従事されました。本学には1968年に経済学部講師として赴任、翌年に助教授、1975年に教授に就任され今日にいたっています。

安藤先生の大学に残された功績は数多いのですが、なかでも顕著なものの一つは、1985年4月以後の入試委員長としてのご活躍です。大学志願者数が増加傾向を示すなかで、入試改革を断行され、本学志願者の大幅な増加に途をつけられました。もちろん多くの方々とのチームワークによって実現したものでしょうが、先生の数学者としての緻密な計画性と信頼にたるお人柄が、与って大きな力となったと思います。

もう一つは、いうまでもなく大学の全面移転へのご貢献です。1989年に学校法人桃山学院の常務理事にお就きになり、全面移転推進の牽引車として働かれました。私事で恐縮ですが、この時期にたまたま教員組合の委員長であったわたしは、理事会側の先生としばしば相対したものでした。立場上、意見の食い違いはあったとはいえ、移転問題への対処をふくめ、先生の真摯なお人柄への信頼感を失ったことはありませんでした。全面移転という大事業の中心に、先生のような方を得ることができたのは、大変幸いであったと思われまます。

先生は本巻の業績紹介の最後に、これまで自らがした仕事は「数学の教材編成論，確率論ならびに数理統計学の歴史」，それに「日本数学史」の三分野だと記されています。興味深いのは，日本数学史をテーマとしたわけについて，同じ文章で，大学の移転に際し「和泉市は文化レベルが低い」との反対論があり，それへの反論として泉州の和算家の研究を始めた旨を語られていることです。大学移転への熱意とともに，改めて先生の幅広い知的探求心に触れる思いがします。退任された後も，恐らくこの知的探求心を発揮され，お仕事に一層励まれることでしょう。

この度，先生に「桃山学院大学名誉教授」の称号を贈り，多年にわたるご貢献への敬意と感謝の意を表し，あわせて本巻を「安藤洋美教授退任記念号」として刊行し献呈いたす次第です。

どうか今後とも，後進への変わらぬご指導をお願いし結びといたします。